

二三五九番

息いきの緒をに 我われは思おもへど 人目ひとめ多おほみこそ 吹ふく風かぜに
あ**ら**ばし**ば**し**ば** 逢あふべきものを

二三六〇番

人ひとの親おやの 娘を子とめ児こすゑて 守山もるやま辺へから 朝あさな朝さな
通かよひし君きみが 来こねば悲かなしも

二三六一番

天あめなる 一ひとつ棚橋たなはし いかにか行ゆかむ 若草わかくさの 妻つま
が**り**といは**ば** 足飾あしかざりせむ

二三六二番

山背やましろの 久世くせの若子わくこが 欲ほしと言いふ我われ あふさわ
に 我われを欲ほしと言いふ 山背やましろの久世くせ